平成24年度東京都認知症対策推進会議における主なご意見

<居場所について>

◆第14回東京都認知症対策推進会議（6月5日開催）

- ・仕事からはリタイヤセざるを得なかった方で、デイサービスに通うほど病気も進んでいない方のためのものがあってもよい。
- ・若年性認知症の人に限らず、介護の必要はないが認知機能が低下している方が、年齢を問わず集える場所を作る必要はある。
- ・若年性認知症専用のデイサービスを開設し、ここにBPSDの激しい患者と対応できる職員を集めて支援するということは適当ではない。
- ・デイサービスありきではなく、職場や家庭での役割が難しくなった人が、どんな場所と支援があれば、その有する能力で安定して過ごしていけるのかという積み上げが新サービスの創出となる。

◆第15回東京都認知症対策推進会議（7月25日開催）

- ・高齢者のデイサービスと比較して若年性認知症のデイサービスの利用料負担がどうかということも考慮する必要がある。
- ・認知症が進行した人に配慮すべきことは、高齢者にとっても同じであり、若年性認知症の人だけが個別に対応すべき対象であるかのように論ずるのはいかなるものか。
- ・個別対応を適切に行えば、若年性認知症の人と高齢者が一緒にサービスが利用できている例もある。具体的な実践例を集約し、情報提供やスキルを共有する必要がある。
- ・認知症が非常に軽い人は介護を目的としない居場所が有意義であり、マンツーマンで対応が必要になるほど進行した人だけを対象に集めて支援するのは現実的ではない。

<既存のデイサービスへの支援>

◆第14回東京都認知症対策推進会議（6月5日開催）

- ・若年性認知症専門とするよりも、既存のデイサービスの対応力を向上して、若年性認知症の人も認知症が進行してデイサービスが必要になったときに利用できるようにする。
- ・若年性認知症の人を受け入れることを躊躇している事業所に対して、啓発活動や対応方法を伝えていくことが必要だ。
- ・認知症の初期の人からだいぶ進行した人が一緒にサービスを受けようとする、事業者側も対応に戸惑っていたという印象がある。

<サービスの視点>

◆第14回東京都認知症対策推進会議（6月5日開催）

- ・個々の興味や関心、生活歴を把握しながら本人に関わること、再度社会とふれあう機会をつくるといった、個別化と社会化が重要である。
- ・若年性認知症の人の、認知症高齢者と全く変わらない部分について、議論が不足している。
- ・若年性認知症の人に合うプログラムがあるかどうか、という話ではなく、個別の問題である。本人にそのプログラムが合っていたか評価する手法からノウハウのヒントが得られる。

<普及啓発>

◆第14回東京都認知症対策推進会議（6月5日開催）

- ・既存のデイサービスの利用については、本人よりも家族に抵抗感があるのではないかと。

◆第15回東京都認知症対策推進会議（7月25日開催）

- ・認知症の発症に際し、心構えができていない人はほとんどいないため、認知症の情報を得るということは大変重要である。
- ・広く社会教育の視点で、会社や市民、当事者、家族、地域に対して啓蒙、啓発を制度化し支援する方法もある。